

平成30年度 姫路獨協大学教員免許状更新講習概要一覧

【 必修領域 】

| NO | 科目名     | 日程         | 内容   |
|----|---------|------------|--|
| 1  | 教育の最新事情 | 平成30年7月29日 | 本講習では、「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)」 「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について考え、今日の教育現場での課題についての理解を深めることを目指す。 |

【 選択必修領域 】

| NO | 科目名                     | 日程         | 内容   |
|----|-------------------------|------------|--|
| 1  | アクティブ・ラーニングを取り入れた英語授業実践 | 平成30年7月30日 | 学習者を飽きさせることなくモチベーションを高め、教育効果を上げるうえで今や欠くことができないのが、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業運営方法である。この講習では、大学における学習者参加型の授業実践例を紹介し、高等学校の英語の授業にどのような形で取り入れられるかを体験してもらう。講習は実習形式で行い、すべて英語で実施する授業も含む。   |
| 2  | 小中高の国語教育                | 平成30年7月31日 | 午前中は小学校の授業を中心に、声に出して読むということの大切さや、「詩」という限られた言葉を通して想像力を豊かにする方法を考える。午後からは中学校から高校の授業を中心に、「短歌を絵にして鑑賞する授業実践」や橋本武氏が実践されたスローリーディングを新聞のコラムで行うかどうかの、本学学生との取り組みを紹介して、国語のアクティブラーニングについて考えてみたい。   |
| 3  | 教育政策と学校内外における危機管理上の課題   | 平成30年8月3日  | 本講習では、主に「法令改正及び国の審議会の状況等」、「学校における危機管理上の課題」に係る理解を深める。具体的に、午前中は学校内における突発的な事故・インターネット悪用によるいじめ等、従来の学校安全管理の枠を超えた事態にどう対応するかを教授し、午後より新学習指導要領を中心とした教育政策、審議会の状況を伝えた後、改定された部分の考え方やポイントについて教授することにより、現場で役立つ知識を身につけることを目的とする。  |
| 4  | 小・中・高でのキャリア教育           | 平成30年8月5日  | 昨今、キャリア教育という言葉が頻りに使用されているが、その殆どが「進学指導・就職研修」を意味している。本来は「生き方教育」であり、小、中、高の各機関において、将来どういう人生を送りたいのか、自分にとってやりがいのある仕事は何か等を模索し、自主決定できるように指導することである。本講座では、校種別にディスカッションし、専門家の提言を頂くことにより、キャリア教育本来の意味を知る事を目的とする。   |
| 5  | 学校カウンセリング               | 平成30年8月9日  | 今こそ誰もがカウンセリング・マインドを備えていることが必須である。生徒の苦しみを聞き生徒の立場になって考え、生徒自身に解決させていく。カウンセリングの基礎を体得しテクニックを習得しながら、生徒の問題解決を援助する方法を探る。カウンセリングは学校教育において重要な役割を果たす時代を迎えている。授業はかつてのような教育的効果をあげることが難しくなっている。学校生活は人間関係に煩雑さを生み、子どもたちの苦悩ははかり知ることができない。これらの問題に何らかの解決への道を示唆することが出来ればと思う。 |
| 6  | インターネット活用の現状と課題         | 平成30年8月24日 | 生活基盤となっているインターネットは、ものすごい勢いで変化している。保護者である大人でさえ、十分な理解を持ってインターネットを利用できていない現状において、学校の役割は非常に大きく、常に時代に即した内容について教員自身が知っておく必要がある。本講座では、最新のインターネットの活用動向として、クラウドサービスなどの新しい技術や、SNS等のウェブサービスと個人情報との関係、事例等の紹介を通して、危険を回避する能力を養い、どの様にインターネットの活用方法を児童・生徒に指導していけば良いかを考える。 |

【 選択領域 】

| NO | 科目名                          | 日程         | 内容   |
|----|------------------------------|------------|--|
| 1  | 次期学習指導要領を踏まえた小・中学校における英語教育   | 平成30年7月30日 | 小学校英語は、2020年度の中学年導入・高学年教科化に向けて本年度より移行期に入っている。また、中学校英語も小学校の指導内容を理解した上で、より質の高い言語活動を設定し、授業で実践する必要がある。本講習では、小学校中学年の外国語活動と高学年の外国語科の授業の進め方、また中学校での「英語で進める授業」「5つの領域の統合を図ったコミュニケーション指導」「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業」について、ワークショップ形式を取り入れた講義で、目的・理論・指導方法を分かり易く講習する。    |
| 2  | 障害支援(福祉機器領域)論                | 平成30年8月1日  | 先天的あるいは後天的に障害をもった場合でもQOL(生活の質)を高めるための支援について学ぶ。特に障害の改善が望めない場合、障害を補う支援が必要になるが、福祉機器による支援もその一つである。ここでは、自助具や福祉用具に関する基本的事項について学び、現場での利用や活用ができることをねらいとする。   |
| 3  | 法教育を考える                      | 平成30年8月1日  | 新学習指導要領の告示や、裁判員制度の導入などに伴い、学校教育における「法教育」の重要性は、今後ますます高まっていくものと考えられる。小・中・高の段階において、どのようにして児童・生徒に「法」について教育していくべきかを、公法(憲法等)、国際法、民事法、刑事法に関する具体的なケースを素材としながら、ディスカッションやロールプレイを通して、受講者のみなさんと共に模索してみたい。   |
| 4  | 障害支援(福祉機器領域)論                | 平成30年8月2日  | 先天的あるいは後天的に障害をもった場合でもQOL(生活の質)を高めるための支援について学ぶ。特に障害の改善が望めない場合、障害を補う支援が必要になるが、福祉機器による支援もその一つである。ここでは、自助具や福祉用具に関する基本的事項について学び、現場での利用や活用ができることをねらいとする。   |
| 5  | アダプテッドスポーツ(Adapted Sports)   | 平成30年8月6日  | アダプテッドスポーツ(Adapted Sports)とは、スポーツのルールや用具を実践者の「傷害の種類や状況に合わせたスポーツ」に適合させるスポーツ」という意味です。本講習では、校種別における健康とスポーツ活動・運動についての考え方を理解し、アダプテッドスポーツを実践することにより特別な支援が必要な子どもを理解することで、インクルーシブ教育にも対応でき、学校現場での適切な指導ができるようにすることを目的とする。  |
| 6  | 生徒指導(生活指導を含む。)               | 平成30年8月6日  | 昨今の学級経営において、生徒指導の難しさが際立っている。家庭の教育力が低下している中、小学校、中学校、高等学校においていかに指導し、健康的な学校生活を送らせることができるのか、先生方と一緒に考えて考え、議論してより良い考えを導き出すように努める。  |
| 7  | からだを理解する楽しさを学ぶ               | 平成30年8月7日  | 本講習では、運動不足による生活習慣病の予防を教育現場で展開できるように予防医学の知識を理解し実践することにより、からだを理解する楽しさを身につける。運動生理学の基礎を教育現場に積極的に活かすために①体脂肪の測定によりからだの状態を知る。②運動の強度を心拍数で計測することを理解する。③運動の理解を日常生活で活かす試みを考える。④からだを理解する楽しさをまとめる。などの取り組みを理解し、積極的に実践できる試みを考える。  |
| 8  | インクルーシブ教育                    | 平成30年8月7日  | 昨今、特別支援学校等と普通学校とを区別する傾向が続いているが、この傾向は決してよいとはいえない。発達障害児と普通児と一緒に勉強することにより、お互いを理解し合い成績も上がっていることが報告されている。「インクルーシブ教育」が叫ばれて日は浅いが、障害を持った生徒を特別な学校等に追いやることなく、共に生活することによってお互いを理解し、双方が前向きに進めることを模索していく。障害児による授業崩壊等の問題もあるが、如何にしてこれを乗り越え、如何にして教師の力量を上げていくか、意見交換していきたい。 |
| 9  | 指導現場に役立つスポーツ科学～傷害への知識とその予防等～ | 平成30年8月8日  | 本講習では、中学校及び高等学校における指導において、スポーツ科学の知識・技術の向上を図ることで、指導方法を安全かつ効果的なものにするを目的とする。スポーツ科学に関する講義だけでなく、傷害予防のためのストレッチングを座学で学んだ後、実際に実践することにより講習の理解を深め、現場において実践ができるような講習とする。  |
| 10 | 学習への動機付け                     | 平成30年8月8日  | いかにしてやる気を起こすか？簡単なことのように見えて難しい問題である。外国へ行くだけで英語を学びたいと思う。多くの人がそれで言語獲得へ動機付けられると解釈しているがそうではない。動機付けとは、その欲求を実現するための行動・努力が必要だ。従来の研究はそこが抜けている。その言語を獲得するために如何に努力するか、「完璧」は無理かもしれないが、そこまでこそモチベーションの定義が当てはまる。その為にはどうすればいいかの、参考意見を述べながら皆で考えよう。動機付けを達成することは正に人生の自己実現なり。 |

| NO | 科目名                                | 日程         | 内容   |
|----|------------------------------------|------------|--|
| 11 | 生徒の自尊感情を高めるための教師への支援～<br>道徳性の発展など～ | 平成30年8月10日 | 生徒の自尊感情を高めるにはどうすればいいのか？高すぎても駄目、低すぎても駄目、適度に高いことが最適であるが、如何にして自尊感情を高めるか？従来の意見では、「褒めて育てる、叱らない」ことがいいと言われているが、実際に日々の授業の中でどうすることが効果的に自尊感情を高めることが可能なか？従来の研究では、「モラルジレンマ授業」が効果的であるといわれているが、他に高尚な音楽教育も自尊感情を高めることが報告されている。不安水準との関係も含めて自尊感情を上げるための方策を考える。 |
| 12 | 教育現場と薬物に関連する問題                     | 平成30年8月10日 | 昨今の教育現場における薬物に関連する問題は、薬物乱用にとどまらず、新学習指導要領の改正に薬に関する教育、アレルギーショック時のアドレナリン注射の問題、アンチ・ドーピング教育とスポーツ、予防接種など多岐に渡っている。この講習では養護教諭のみならず一般の教員に対してもこれらの問題について理解を深められるよう解説する。  |
| 13 | 自己受容とアンガーマネジメント                    | 平成30年8月11日 | 怒りをごまかすでも、排除するのではなく受け入れることでアンガーマネジメントをするアプローチです。自分自身の感情を受け入れることで、児童・生徒がもつ怒りの感情への対処の仕方が変わります。「なんでそんなことで怒るのよ」とか「すぐキレないでよ」と怒りに怒りて対処している状態から解放され、子どもが出した怒りに対して「怒りを出せてよかったね」、「言葉にして教えてくれてありがとう」と思えるようになります。午前中2コマが講義、午後の2コマがワークショップとなります。         |
| 14 | 心を開く表現活動                           | 平成30年8月12日 | 最近では、大人も子ども、心に仮面をかぶったり鎧をつけて、なかなか本音が言えない状況にあるように思える。そこで本講座では、生徒・保護者・同僚とより良い人間関係を保てるように、アサーションやフレーミングのスキルを身につけ、コミュニケーション能力の向上を図る。また、一行詩の創作により、素直な心を引き出す実践報告をする。これらによって相手の心と自分の心を開くカギを見出すことが本講座のねらいである。   |
| 15 | プログラミング教育の現状と展望                    | 平成30年8月20日 | 今日、ICTを活用できる能力は、社会生活にとって不可欠なものとなってきている。そのような社会状況の中で、小学校においてプログラミング教育の必修化が検討されている。本講習では、先行的な取り組み等のプログラミング教育のカリキュラム等の紹介と、子ども向けプログラミング言語Scratchによるプログラミング体験実習を行う。講習を通してプログラミング教育の意義や、各教科でどのように活用できるかを考える。                                       |
| 16 | 教育要領の改訂と共に見直すホモンノ保育                | 平成30年8月22日 | 現場で生かせる保育の理論と実践を学び、いろいろな課題に取り組みながら保育者の姿勢や子ども自身を理解することを学ぶ。また、幼稚園教育要領の変遷の経過から子育てに支援が求められるようになった現代の保育・教育について問題意識を得ながら学び合う。主に講義形式とし、一部に「表現活動」を取り入れる。   |
| 17 | ICTを活用した授業教材の利用法                   | 平成30年8月22日 | 学校教育におけるICT環境の導入・整備が進んでいる中で、授業におけるICT環境での教材活用の考え方・手法について講義演習をおこなう。情報機器やネットワークの整備が進む教育環境で、ICTを活用した授業の事例や演習を通してその有効性や活用方法について考える。黒板とチョークとデジタル化された学習教材の効果的な利用法について具体的な機器操作も含めて実習をおこなう。  |
| 18 | 暮らしの中の数理                           | 平成30年8月23日 | 本講習では、暮らしの中の身近な問題から、それらの奥に潜む数理を取り出し、真に必要な基礎学力とは何かを考える。『暮らしの安全を支える一暗号理論と「余り」の数学』、『学校教育(中学・高校)で扱う統計学』、『オープンソースソフトウェアの活用』の3つのテーマに取り組む。3つ目のテーマでは、この講習によってオープンソースが学校で有効に活用され、教育現場での仕事の質と効率がより一層向上することを目指す。  |
| 19 | 身体と文化～人間を考える～                      | 平成30年8月23日 | 本講習では、「身体」および「文化」の2つの観点から、人間が持っている文化心理的行動や身体感覚について教授する。講義形式とし、午前「身体感覚」について、「日本・中国・英語圏」の3つで比較し、午後は「ハロー効果」および「プランナー効果」について、日本語「聞き耳頭」や諸外国の例示を用いて、「信心(心理的感覚)」について講義し、日本と諸外国との相違について学ぶことを目的とする。   |